

持ちつ持たれつの暮らし

—外国人居住者との交流による高齢者の生きがいの創出—

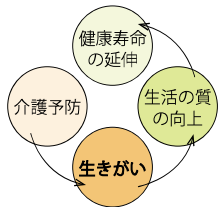
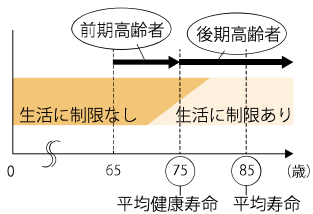
A21AB028 大谷那由美



01. 背景

1-1：高齢者について

日本は「超高齢社会」を迎え、老後の生活が長期化している。そこで、介護予防を基に、高齢者が生きがいを感じながら過ごし、生活の質を向上させ、健康寿命の延伸に繋げることが重要である。



1-2：外国人居住者について

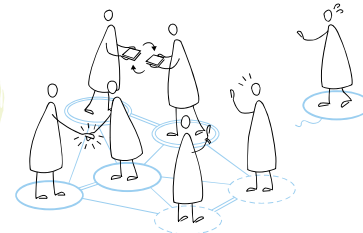
外国人居住者の増加に伴い、働き手が増える一方で言語、文化等の違いから生活に困っている外国人が存在する。そこで、外国人を日常的に手助けする人が必要である。



1-3：高齢者と外国人居住者について

高齢者と外国人は、生活の中で周囲からの支援が必要な機会が数多くある。しかし、単身や夫婦だけで暮らす高齢者や日本に移住してきた外国人居住者には、身近に頼れる人がいないことがほとんどである。

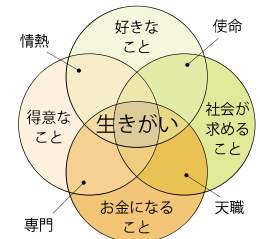
豊川市外国人割合
約4.4%
愛知県内：9位
(R5年7月1日時点)

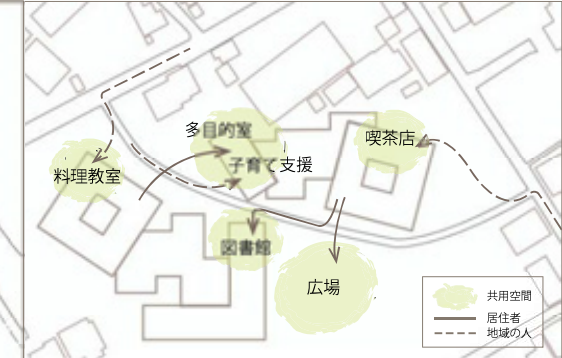


02. 生きがいについて

2-1：生きがいとは

生きがいは人により異なり、生きがいの要因は大きく5つに分類される。生きがいは1人1つとは限らず、各々生きがいベン図として表せる。





[地域へのパブリック空間]
各住居ごとに地域の人でも利用可能なパブリック空間を設ける。他の棟に住む人同士や地域の人との交流、助け合いを促す。



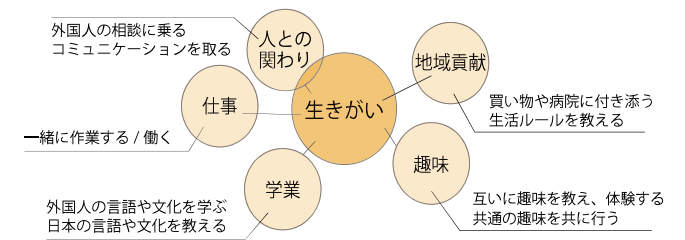
[デッキ空間による交流]
棟間にデッキを設け、洗濯物を干す際や、互いのリビングが見えることにより、棟ごと(単身×ファミリー)の交流を促す。



03. コンセプト

2-2: 外国人への手助けと高齢者の生きがいの関係性

生きがいを感じるには周囲の人からの反応や手助けが重要である。そのため、高齢者は外国人への手助けを行うことで、日本人との関わりだけでは感じる事の難しい、より様々な部分の生きがいを感じられる。

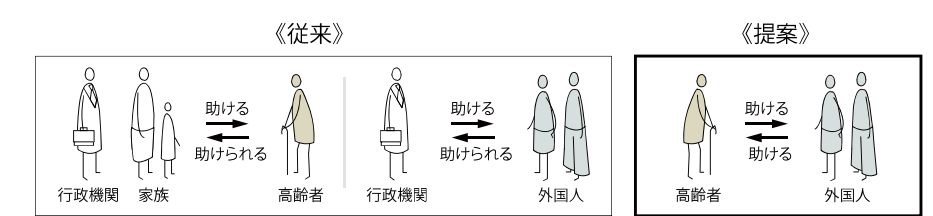


3-1: 高齢者と外国人の関係性

今まで周囲から援助を受ける側だった者同士を掛け合わせ、**助け合いによる新たな交流を生む**コレクティブハウス。高齢者は、日常的に生きがいを感じ、外国人は日本の生活について学ぶような関係性。

3-2: 日常行動からの空間

高齢者と外国人が**助け合い行動**を伴う空間を共用部分とする。日常的に助け合いが生まれ、それに伴い会話も生まれる。そこから、外国人は日本語を学び、高齢者は会話の内容や日本語を教える行為で生きがいを感じる。



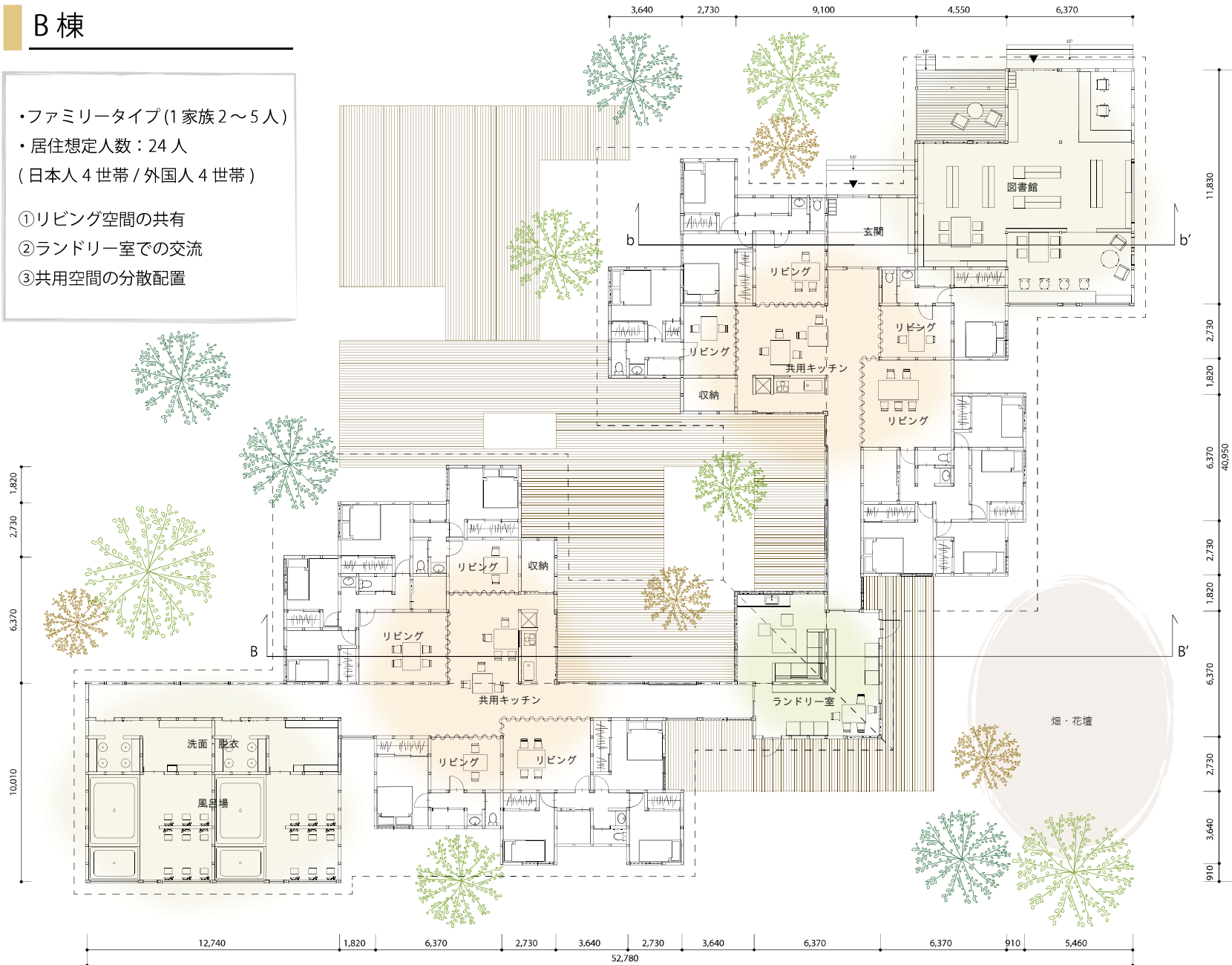
行動内容	行う場所	一人で出来る	助け必要(高齢者)	助け必要(外国人)
睡眠	自室	◎		
食事	リビング	◎		
身支度	着替え	◎		
	入浴	◎		
	洗顔	◎		
	排泄	◎		
家事	料理(炊事)		○	◎
	血洗い		○	
	掃除	居室、廊下、階段	◎	
	洗濯	脱衣所、デッキ	◎	○
	買い物	玄関	◎	◎
	ゴミ出し	ゴミ捨て場	◎	◎
移動	住居内の移動	居室、廊下、階段	◎	
	住居外への移動	玄関	○	○
会話	リビング、廊下			◎
運動	単体	自室、庭	◎	
	団体	広場		○
休息	自室、畑	◎		
娯楽	リビング			

[助け合い行動と場所の関係性] プライベート: 共有部:

B棟

- ・ファミリータイプ(1家族2~5人)
- ・居住想定人数: 24人
(日本人4世帯/外国人4世帯)

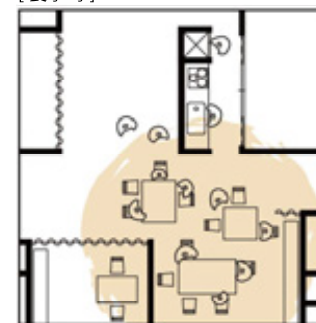
- ①リビング空間の共有
- ②ランドリー室での交流
- ③共用空間の分散配置



[通常時]

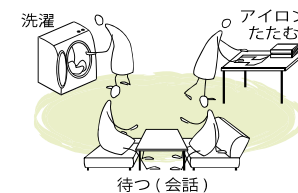


[食事時]



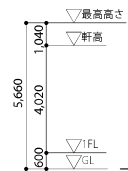
①リビング空間の共有

共用キッチンに接して各住戸のリビングを設けた。各住戸のリビングを開放すると共用キッチンに繋がり家族ぐるみでの交流に繋がる。

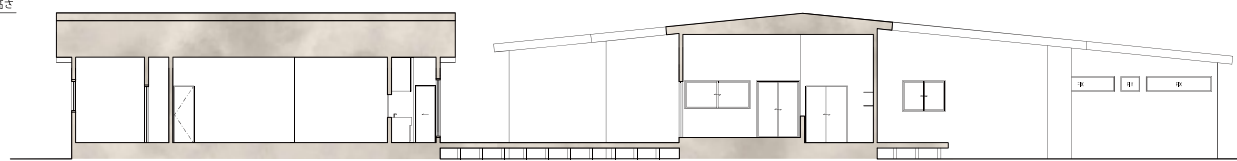


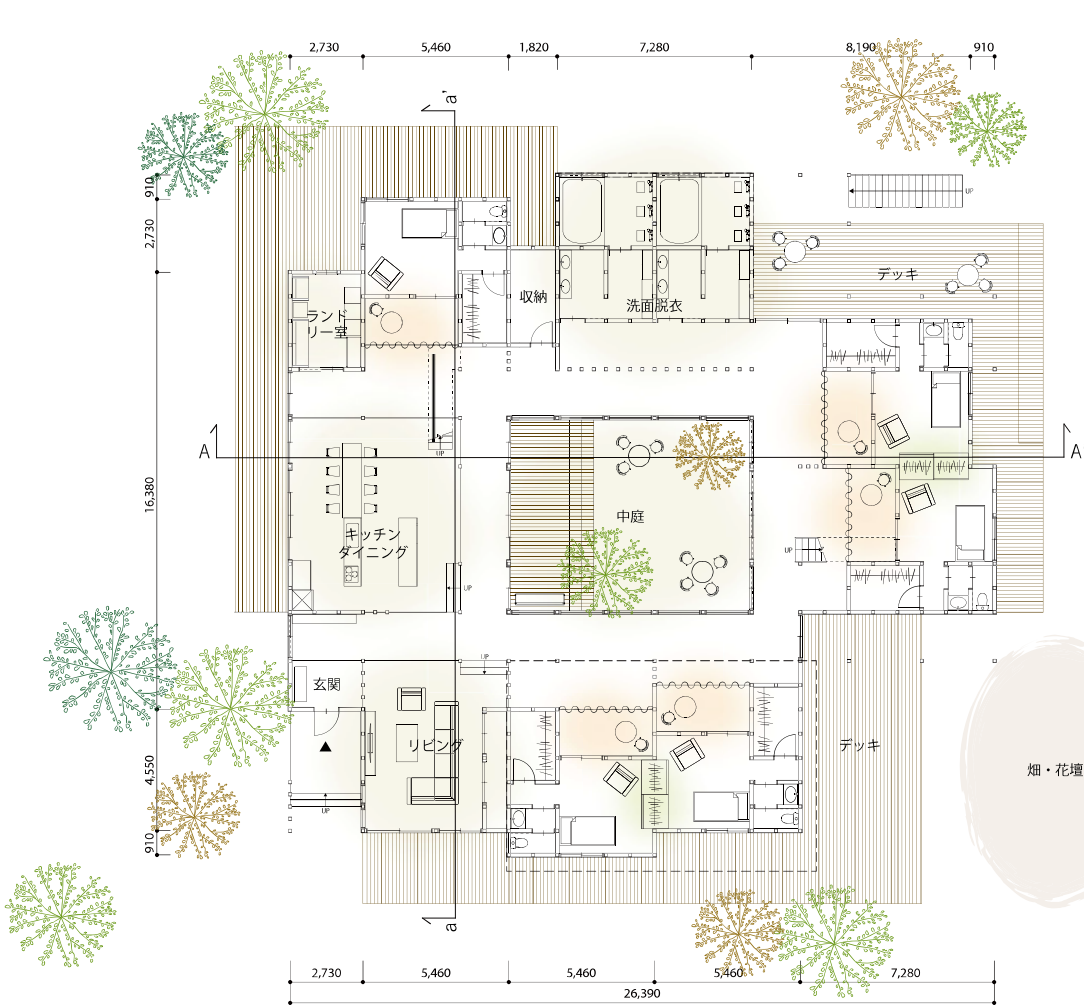
②ランドリー室での交流

洗濯に伴う作業時間と洗濯以外の時間を共有する。

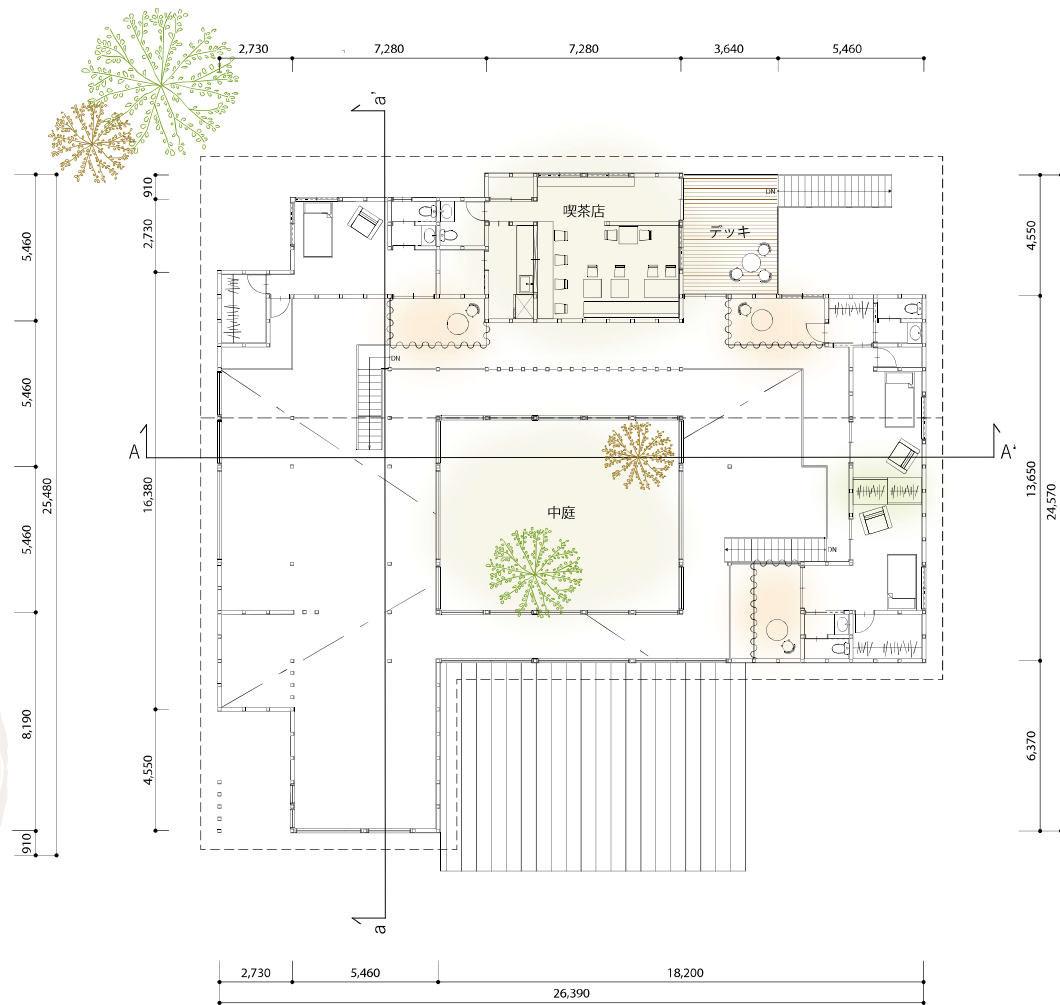


B-B' 断面図 1:100





A-2棟 1階平面図 1:100

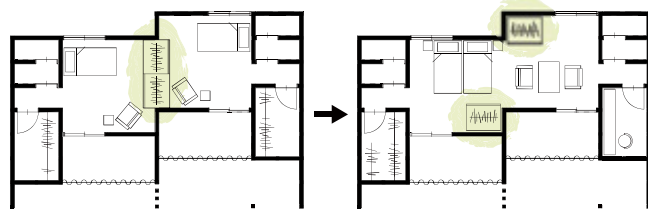


A-2棟 2階平面図 1:100

A-1, A-2棟

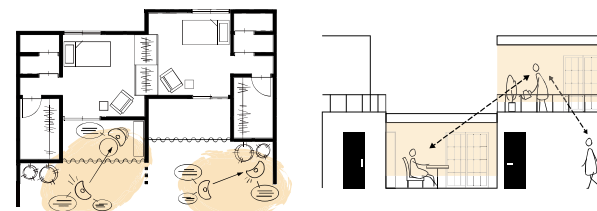
- 単身 / 夫婦タイプ
- 居住想定人数：8人
(日本人4人 / 外国人4人)

- ① 可変式の間取り
- ② パブリック / セミパブリック空間での交流
- ③ 共用空間の分散配置



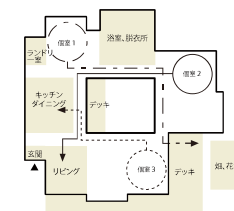
① 可変式の間取り

戸境壁を可動式の棚で仕切り、フレキシブルな間取りとする。単身、夫婦どちらの居室としても空間の利用が可能。



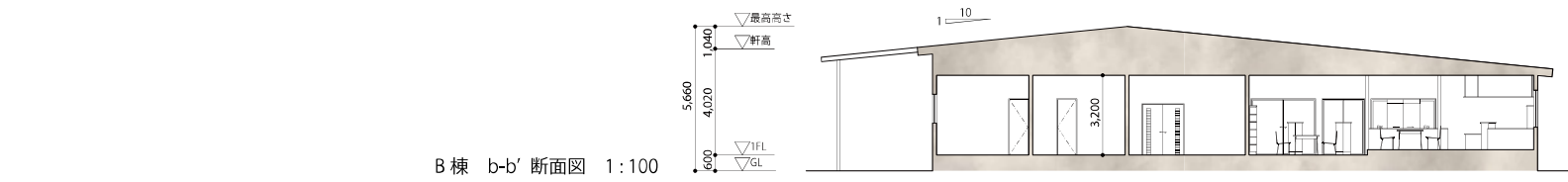
② パブリック / セミパブリック空間での交流

各部屋の前にセミパブリック空間を設ける。簡易的にカーテン等で仕切ることで、廊下を通る際に互いの様子が垣間見え、交流が生まれる。

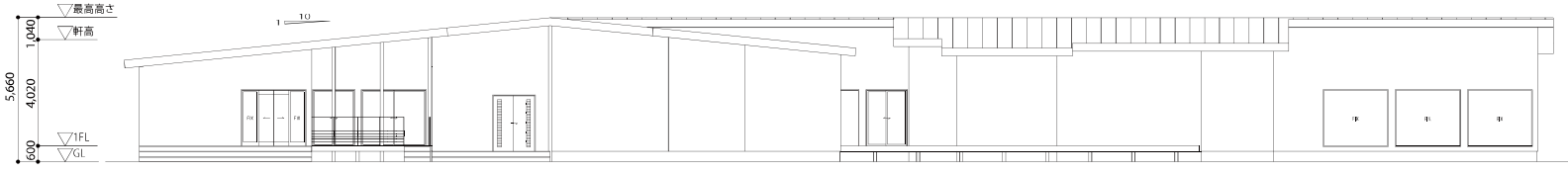


③ 共用空間の分散配置

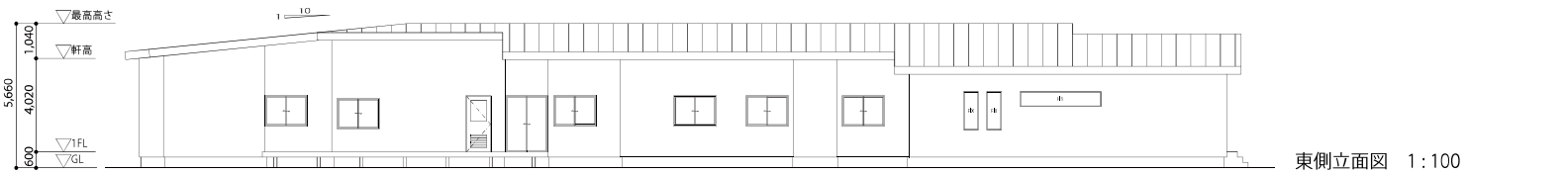
動線や視線を混ぜ、居住者同士が顔を合わせる機会を増やす。



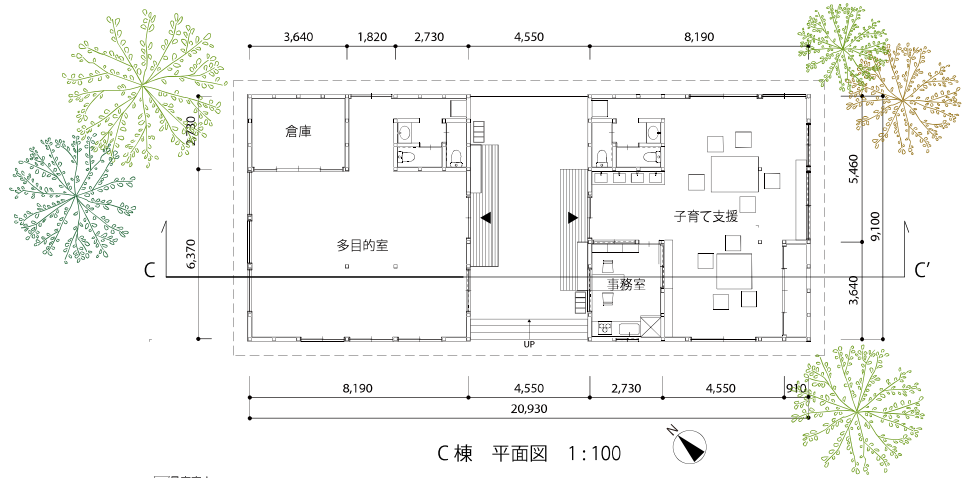
B棟 b-b' 断面図 1:100



北側立面図 1:100



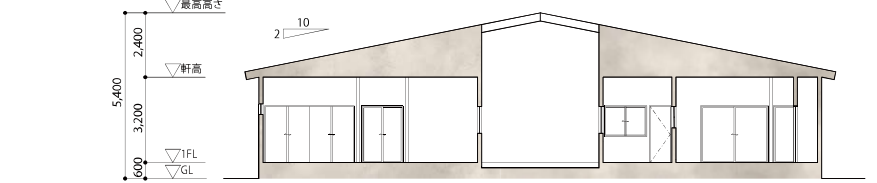
東側立面図 1:100



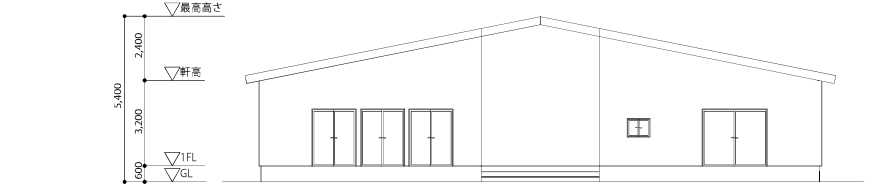
C棟 平面図 1:100

C棟

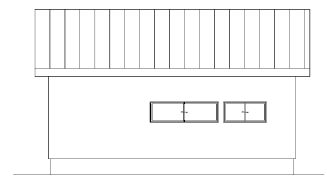
- ・子育て支援、多目的室など地域に開放した空間
- ・敷地内に住む高齢者が交代で管理を行う
- ・近隣の保育園児、小学生との交流の場
- ・日本人、外国人に関わらず色んな保護者との相談の場 (主に高齢者が相談に乗る)



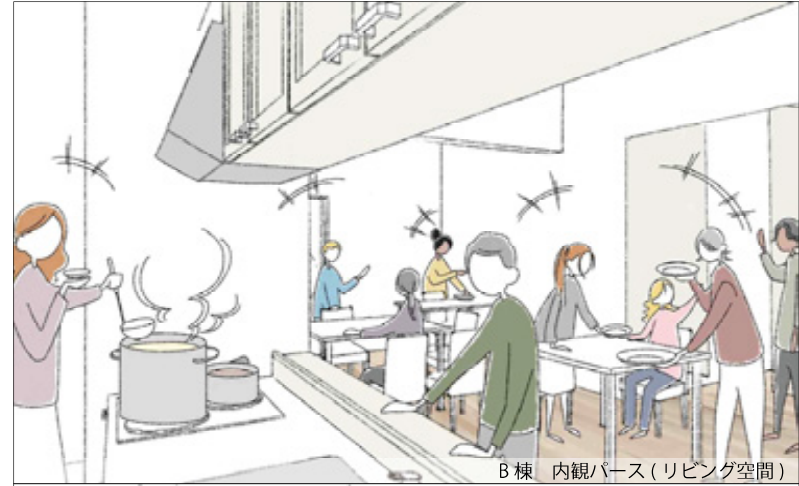
C棟 C-C' 断面図 1:100



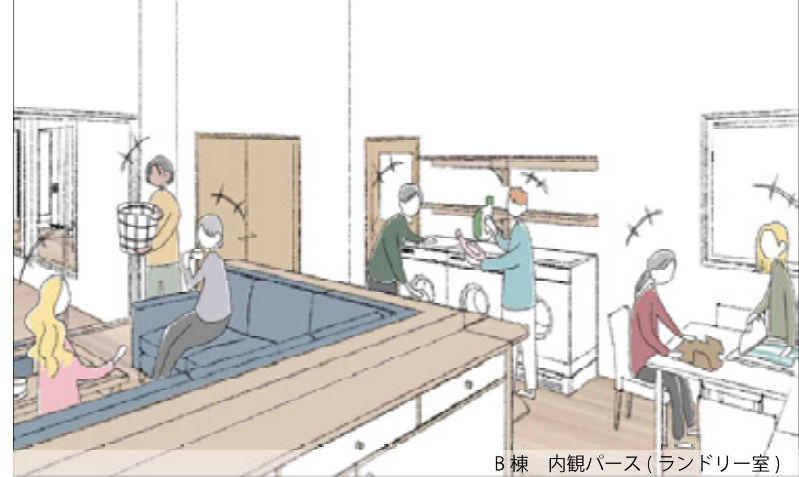
C棟 西側立面図 1:100



C棟 南側立面図 1:100



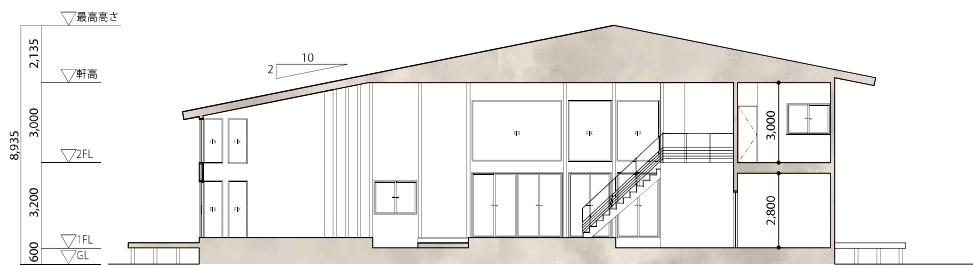
B棟 内観パース (リビング空間)



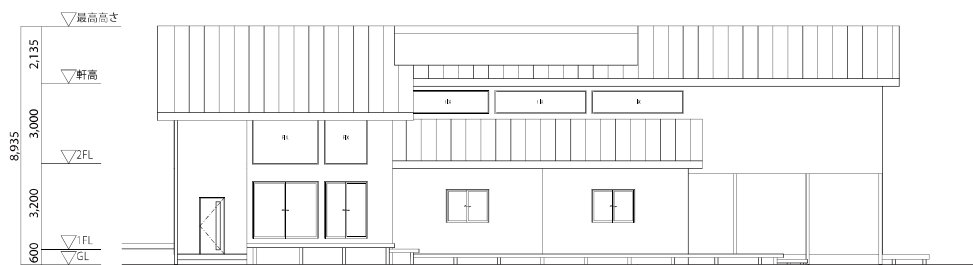
B棟 内観パース (ランドリー室)



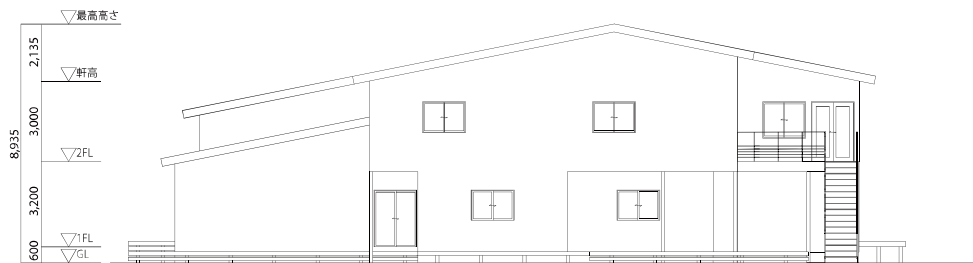
A-2 棟 A-A' 断面図 1:100



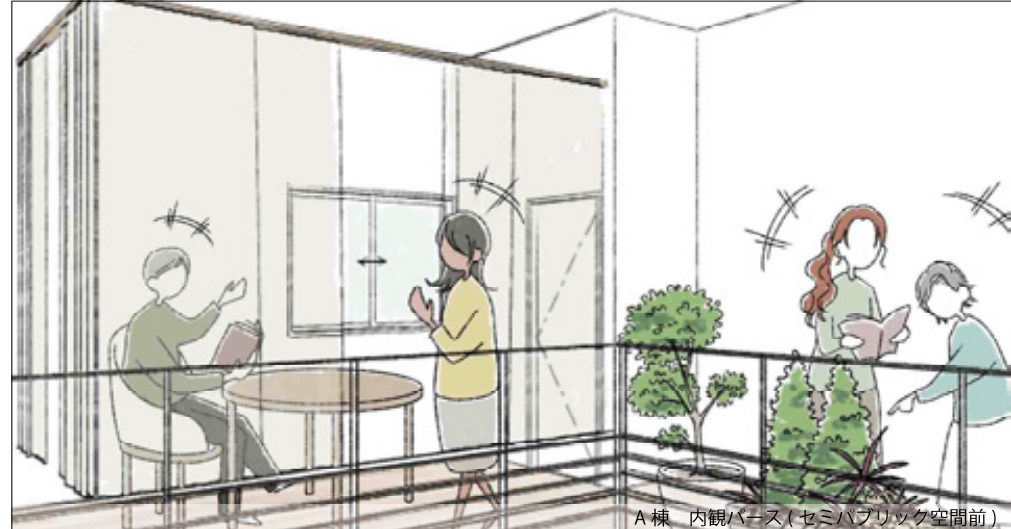
A-2 棟 a-a' 断面図 1:100



A-2 棟 南側立面図 1:100



A-2 棟 東側立面図 1:100



A 棟 内観パース (セミパブリック空間前)



A 棟 内観パース (リビング空間)



C 棟 内観パース (子育て支援空間)